

volume
118

2011

HABATAKI

はばたき

UNIVERSITY OF SHIZUOKA

Yada 52-1, Suruga-ku, Shizuoka 422-8526 Japan

inside NEWS



News

—薬食生命科学総合学府スタート！

US Report

—夏休みの活動報告

海外留学体験記

図書館だより

創立25周年記念事業

活躍する卒業生

連載 県大生ピックアップ！

—経営情報学部MIIC—

INDEX

- 01 News
- 03 US Report
- 13 海外留学体験記
- 15 図書館だより
- 17 奨学金授与式の報告
- 19 創立25周年記念事業
- 20 教員人事情報
- 21 県大生ピックアップ!
- 22 活躍する卒業生
- 23 受賞一覧



表紙写真:
県民の日事業
キャンパスツアーにて

News

01 公立初の学府! 薬食生命科学総合学府が 来春スタート

静岡県立大学では、大学院の薬学研究科と生活健康科学研究科を2012年度に統合し、「薬食生命科学総合学府」を新設することとなりました。

薬食生命科学総合学府は、今まで隣接した領域にありながら、知識・技術の同時習得が困難であった薬学と食品栄養科学の両分野の知識を兼ね備え「健康長寿」を捉えることができる人材を養成することを目的としており、学府の設立は全国の公立大学では初めての試みとなります。

2012年(平成24年)4月1日の改変に伴い、学生募集を2011年6月1日から開始しています。

02 学生震災ボランティア始動!

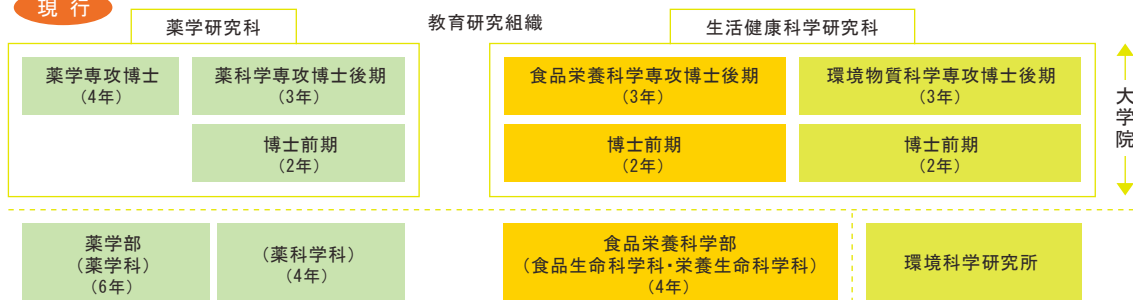
3月11日の東日本大震災を受け、本学では学生間で東日本大震災について考え、支援を行っていくことを目的に「静岡県立大学 学生震災ボランティアグループ」が7月に結成されました。このボランティアグループは 国際関係学部 小幡壮教授が中心となって発足したもので、岩手県での震災ボランティアに関する情報提供と参加の呼びかけを行い、希望した学生が夏休み期間を利用して被災地での支援活動に参加しました。

このボランティアサークル以外にも、多くの学生が被災地に赴き活動を行っています。

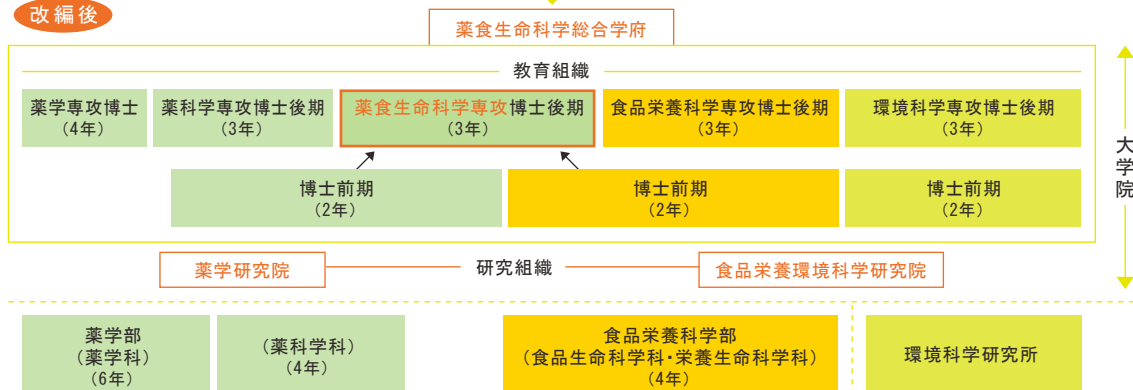
本学ではこれまでに、5月にはボランティアに行った学生による報告会、6月にはボランティア説明会などを行っており、この度のボランティアグループの始動により今後もさらなる活動を続けていきます。

組織図

現行



改編後



東日本大震災に係る 本学の学生ボランティア参加状況 (8月30日時点 大学が把握している活動)

- ① いわてGING A-NEETプロジェクトへの参加
(岩手県立大学ボランティアセンター主催)
・人数… 7名
・期間… 8月17日～8月23日
- ② 静岡県社会福祉協議会主催事業
①・人数… 2名
・期間… 4月27日～5月3日(2名)
8月6日～8月13日(1名 ※2回目)
②・人数… 短大生2名
・期間… 5月2日～5月9日(2名)
- ③ 静岡県ボランティア協会主催事業
・人数… 21名
・期間… 5月12日～9月26日の間で、各人5日間
- ④ テレビ静岡東北キャラバン
・人数… 短大生1名
・期間… 8月26日～8月31日



◎東日本大震災の現地活動ボランティアに参加して◎ 国際関係学研究科1123106 畢 穎続 (ヒツ エイゾク)

ボランティアを乗せたバスの窓から外の景色を見ると、目の前に見えてくるものは、すべてばらばらになっていました。東北の何十代の兄弟姉妹(人々)の努力によって築きあげた郷里は一瞬になくなってしまいました。

私は、中国からの留学生です。今回、静岡県ボランティア協会が主催する東日本大震災災害ボランティア第16次隊として、7月21日から5日間、陸前高田市で30人の日本人と一緒に活動を行いました。

現地の人が、今どんな気持ちで暮らして復興を進めているのか、国際関係を学ぶ上で、自分が体験・経験しなければ、日本の文化や考え方を理解することができないのではないか、そして、中国と日本の関係を自分の力で少しでも良くしたいと思い参加をしました。

被災状況を目の当たりにすると、自然に対して人間が極めて小さい存在だと感じます。「人は弱い、弱いから支え合うほかない」と強く思いました。現地の人々に会って、微笑しながら挨拶をしてくれたり、水は足りているかなどを聞いてくれたことに「人情」を感じました。人々が復興に向けて頑張っている姿を見て、私たちボランティアもとても励まされました。

ボランティア参加者は、復興支援という1つの目標のために集まるため、お互いに協力し、その上での交流はもう国境を超えていました。活動の後、毎晩12時まで続いた報告会では、ある参加者が、川の中から津波で流された結婚式の写真を見つけた話と一緒に感動したり、日本の多くの若者がボランティア活動に熱心だから、日本の将来はきっと良くなると議論をしたり、遠野の語り部から昔話を聞くという東北の文化に触れることもできました。また、宿泊施設では、4人で入るシャワーで水を掛け合ってたことも忘れられません。こうした人と人との交流は、貴重な体験で、それは本当の国際関係学の授業ではなかったかと思います。



» Game Camp 2011

5月1日(日)から8日(日)に、財団法人科学技術融合振興財団からの助成を受けて開催された「Game Camp 2011」に、静岡近郊の高校生7名が参加し、国際関係学部ディハーン・ジョナサン・ウィリアム准教授のゼミ生とともに、学生による授業や、チームを組んでのワークショップを通して、ゲームや英語、チームワークやデザインについて学びました。

Game Campとは?

高校生を対象にした「ゲームを通して英語を学ぶプログラム」です。ゲームを作る技術の他、ゲーム産業、流行についての情報などを学びながら、楽しく英語でコミュニケーションをとる機会を高校生に与え、変化し続ける高度な技術社会に必要な、メディアとテクノロジーを読み解く力、英語の理解とコミュニケーション、確かな思考力、創造性、チームワークなどを身につける画期的なプログラムです。また、主催者のディハーン・ジョナサン・ウィリアム准教授のもとで学ぶ学生たちの卒業研究の調査の取り組みでもあります。



ディハーン・ジョナサン・ウィリアム准教授からの報告です。

参加した高校生はまず、現代のボードゲームについて学び、それを実際にやってみます。英語授業用のゲーム、ボードゲーム、テレビゲームなど、たくさんのゲームを体験しました。

次に、自分たちでオリジナルのゲームを作るため、効果的なチームワークについてのアイデアを、英語によるディスカッションや発表を通じて提案し合いました。

生徒たちは2チームに分かれ、ゲームの作成に取り組みます。作成には、オンラインゲーム作成ツールを利用しました。英語で、3段階のストーリーのあるゲームを作ります。簡単すぎず、難しすぎず、なおかつ、コンピューターリソースに頼りすぎないゲームになるよう、デザインを完璧なものに仕上げるために、何度もテストプレイをしました。

完成したゲームを、オンラインゲーム作成ツール「スプローダー」のサイトに発表すると、サイトを通じて他の海外にいるデザイナーが、東日本大震災後の状況について尋ねてきました。生徒たちは皆、本当に感激していました。

また、ゲームの作り方のほか、映像や印刷された広告を分析し、マーケティング戦略についても学びました。「CERO(年齢別レーティング制度)」や「ESRB(ゲーム購入の際に必要な情報を提供する制度)」といった、ゲームの内容に関する情報の掲載の仕方を学び、自分たちのゲームにも活用し、自分たちの架空のゲーム会社のロゴデザインや、広告に載せるキャッチコピーを考えました。図柄、対象と



する年齢・人物像、広告戦略を発表し、他のグループからのフィードバックを取り入れながら、ポスターをデザインしました。

そして、ゲームの発表会である「Game Show」にむけての準備がはじまりました。

英語でのインタビューのために、まず産業界や大学で行われたゲームイベントの英語によるインタビューを分析しました。分析した結果を参考に自分たちで原稿を考え、インタビューの練習をします。練習風景は撮影し、映像を見てさらにブラッシュアップしました。

本番の「Game Show」には参加者の友人やご家族が来場し、来場者用に用意されたゲームとコンピューターの設備でゲームを楽しみました。ゲームデザインチームは、英語でのインタビューを行い、聴衆に向けて自分たちの作成したゲームを発表しました。発表に対しての投票が行われ、賞を受賞した各チームのメンバーはとても嬉しそうでした。

参加者全員がいろいろなことに挑戦し、楽しい時間を過ごし、多くのことを学びました。忙しいながらもとても充実した一週間となりました。

なお、このGame Campにより集められたデータは、学生の卒業論文やGame Campについての本の作成資料に使用されます。また教育用素材は、下記のGame Campウェブサイトにて無料で配布予定です。来年もGame Campは開催予定です。どなたでも参加できますので、皆様の参加をお待ちしています。

GameCampについて <http://www.gamecamp.info/>

◎ 文科省「大学教育推進プログラム」活動報告

文部科学省の平成22年度大学教育推進プログラム事業に選定された、国際関係学部への取り組み「フィールドワーク型初年次教育モデルの構築」について、昨年の2月から3月にかけて、プログラム事業の初年次教育として学部1年生47名、上級生アドバイザー26名を対象に、国内外の6つのフィールドワーク（アメリカ、オーストラリア、ケニア、スペイン、ベトナム、日本）を実施し、その後、5月31日（火）に本学にて成果報告会を開催しました。

会場には150人以上もの方々にご来場いただき、大盛況となりました。各ゼミの工夫を凝らした発表が

ら、充実したプロジェクト内容と参加学生の成長をうかがい知ることができました。

6月20日（月）には、プログラム事業の初年次教育が御専門の鳥井康照講師（桜美林大学）をお招きし、本プログラムについて御助言をいただいたほか、本学のディハーン・ジョナサン・ウィリアム准教授からもPBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）について意見が出されました。この取り組みが昨年度よりも良いものとなることを目指しています。

（国際関係学専攻 教授 立田洋司・助教 比留岡洋一）

◎ ベトナム・フエ大学との学術交流セミナーの開催

環境科学研究所は、ベトナム社会主義共和国・国立フエ大学科学大学部との学術交流協定（2008年8月28日締結）に基づき、2010年3月14日に同大学において第4回学術交流セミナーを開催しました。

当研究所からは、国包章一教授、岩堀恵祐教授、関川が参加し、国包教授と関川がそれぞれ「Arsenic mitigation in Bangladesh」および「Fecal indicator bacteria and *Vibrio parahaemolyticus* in rivers in urban areas of Hue and Da Nang, Vietnam」について研究発表を行いました。同大学からは科学大学部の副学部長であるDr. Truong Quy Tung（本学大学院生活健康科学研究科環境物質科学専攻修了生）をはじめ、化学科、環境学科の教員および学生（約30名）が出席しました。発表後の質疑応答では活発な議論が行われ、盛況のうちに終了しました。また、今回の学術交流セミナーはフエ大学Webサイトで紹介されました。

（環境科学研究所 助教 関川貴寛）



今回の学術交流セミナーで紹介されたフエ大学Webサイト
<http://khoamoiuonghuc.edu.vn/modules.php?name=News&op=viewst&sid=133>

食品栄養科学部が静岡食育推進ワークショップに参加

8月26日(金)に東海大学短期大学部にて関東農政局・静岡農政事務所主催の「静岡食育推進ワークショップ」が開催され、本学から食品栄養科学部栄養教育学研究部の教員2名と、学生5名が参加いたしました。

静岡食育推進ワークショップは、次世代を担う若者を対象に、バランスのとれた食生活や、農産物の生産に対する理解・関心を深めるために、静岡県内の大学と農政事務所が連携した食育活動の一環として、大学生を中心としたワークショップを開催し、学生自ら「食のあり方」を学ぶ場を提供することを目的に開催されています。

会場では、学生による各大学の食育活動事例を報告し、調理体験を行った後、浜松市立天竜中学校の竹村久生先生による「手軽に出来る野菜作り」の実践と食農体験の効用の講演がありました。食農体験では、牛乳パックを加工したプランターを使った野菜栽培の実践を行い、参加した学生は、野菜が手軽に栽培できる方法を学べたので、ぜひ家でも実践してみたい、子供達に食育を通して簡単にできる野菜作りがあることを教えたい等、

体験した喜びを語っていました。将来、管理栄養士として活躍することを希望している学生5名にとっても貴重な食育体験となり、県内の他大学の食育活動についても情報交換ができ、有意義なワークショップとなりました。

(食品栄養科学部 准教授 桑野 稔子・助教 井上 広子)

本学からの参加者

- 桑野稔子 准教授
- 井上広子 助教
- 栄養生命科学科3年生
鈴木秋津さん・盛山夕紀子さん・西野夏奈帆さん
古田和加奈さん・望月真紀子さん



食育事例発表の様子

星・木苗杯開催される

7月10日(日)、食品栄養科学部テニス大会である星・木苗杯が開催されました。今年は昨年よりも多い総勢52名の学生と教員の方々にご参加いただき、今まで以上に盛大な大会となりました。当日は天気にも恵まれ、焼けるような暑さの中、皆大いにテニスを楽しみました。男子では山田雄司さん(生化学研究室4年)が、女子では林美香さん(生物分子工学研究室4年)が優勝し、その歴史に新たな名を残しました。試合終了後に開かれた懇親会では、普段話す機会が少ない教員と学生が一同に会して親睦を深めました。

今年で21回目となるこの星・木苗杯、皆の笑顔があふれ、苦しい中でもとても楽しそうにプレイしていたので、実行委員一同は本大会を運営して本当によかったと思っています。この大会を通して築かれた人と人との

繋がりが、星・木苗杯の更なる発展につながることでしょう。来年は今年以上に盛大かつ壮快な大会になってもらいたいと思います。

(大学院生活健康科学研究科博士前期課程1年
米持 巧・山本 峻資・疋田 礼・渡辺 祥子)



◎ 体験してみよう!「病気を調べ くすりを創る」“夏休みファーマカレッジ2011”開催

静岡県内の高校生を対象とした「夏休みファーマカレッジ」が8月4日(木)、5日(金)の2日間にわたって薬学部で開催されました。この催しは、高校生に大学の最先端研究に用いられている設備、機器を使って薬学の最新知識と技術に触れながら、薬学の世界を体験する機会を提供するもので、13回目を迎えた今年は「体験してみよう! 病気を調べ くすりを創る」をテーマに開かれ、県下29高校から80名の生徒が参加しました。高校生たちは、白衣に身を包み、「糖尿病を調べてみよう」「フラスコの中で『かぜ薬』を作ろう」など10の体

験テーマに分かれて教員や大学院生の指導の下、様々な実験に熱心に取り組んでいました。2日目の報告会では、テーマごとに実験結果を生徒自らが発表し、生徒同士の活発な討論も行われました。今回の参加者の中からひとりでも多くの生徒が、薬学の世界に進み、次世代の新薬開発や高度医療を担う指導的人材に成長してくれることを期待します。

(薬学部 教授 板井茂・准教授 野口修治)

◎ 静岡県立大学 創立25周年記念事業 「高校生による自然科学研究成果発表会」を開催

日本薬学会第131年会静岡大会の特別企画として予定されていた「高校生シンポジウム」は、東日本大震災の影響で残念ながら中止されましたが、次世代人材養成にも寄与する企画として高い評価を得ていたことから、この度静岡県教育委員会の後援を得て、静岡県立大学創立25周年記念事業「高校生による自然科学研究成果発表会」として、8月12日(金)に本学で開催されました。

創立25周年記念事業実行委員長の野口教授による本発表会の趣旨説明の後、奥学部長によるスライド講義「シャボン玉とりボソーム」と、単分子膜形成実験やリボソーム崩壊実験を交えた高大連携授業が進められ、高校生の自然科学への関心を高める機会となりました。今回の研究成果発表には東海3県(岐阜、愛知、静岡)の高校8校から11演題の応募があり、口頭発表に加え、高校生同士の交流

を目的としてポスター発表も並行して行われました。発表に対して大学教員、大学院生、高校生、高校教員から核心に触れた質問や今後の研究に参考となる有意義なコメントがなされ、高校生側から感謝の言葉が寄せられました。発表会の最後に木苗学長から優秀プレゼンテーション賞が4演題に授与されました。本学教員と学生も含め合計129名が参加し、次世代を担う高校生の自然科学への理解を深める機会となり、参加者全員が有意義な時間を過ごしました。

(薬学部 教授 菅谷 純子)



高校生48名、高校教員10名、静岡県立大学学生、大学院生44名、教員27名が参加しました

◎ 静岡市立高等学校科学探究科の生徒が来学

8月22日(月)、23日(火)に静岡市立高校の科学探究科1年生29名が来学し、本学食品栄養科学部と環境科学研究所地域環境啓発センターが主催する実験や講義、先輩との懇談、キャンパスツアーを体験しました。

1日目は、食品栄養科学部教員による「茶の抗酸化性とカテキンの量を測る」の実験と、環境科学研究所教員による「放射線を見る、測る」の実験を体験しました。

2日目は、食品栄養科学部桑野稔子准教授による講義「あなたの食事大丈夫?—食生活を診断してみよう—」と環境科学研究所坂田昌弘教授の講義「水の不思議さ、水の大切さ」を聴講し、静岡市立高等学校出身の市川実久さん(生活健康科学研究科博士前期課程)、青木瞳さん(食品栄養科学部4年)との懇談会で先輩との交流を深めました。その他、助教陣の案内で図書館や、語学の自律学習施設SALLなどの施設を見学するキャンパスツアーを行いました。

生徒さん達からは、「実験が楽しくできた」「先生方が温かく、良い雰囲気だ」と感じた。「実験設備が充実している大学だと思った」「市立高校卒業の先輩方も優しく質問に答えて下さり嬉しかっ

た」等の感想が寄せられ、1日半の短い時間でしたが、楽しく充実した体験ができたようです。

(食品栄養科学部 准教授 桑野 稔子)



本イベントの企画関係者

食品栄養科学部 桑野稔子 准教授・増田修一 准教授
環境科学研究所 下位香代子 教授・谷幸則 准教授

当日の参加関係者

木苗直秀学長、大島寛史食品栄養科学部長、坂田昌弘環境科学研究所長、
島村裕子助教、伊吹裕子准教授、豊岡達士助教、
内藤博敬助教、井上広子助教、榎原啓之助教、関川貴寛助教、寺崎正紀助教、
岩村武助教、塩澤竜志助教、斎藤貴江子助教

環境科学研究所 サマースクール2011を開催

大学院生活健康科学研究科環境物質科学専攻では、環境研究および環境科学研究所の研究に興味を持つ大学生、大学院生を対象に専攻の各研究室の研究内容を実際に体験してもらうことを目的に「サマースクール2011」を8月19日(金)に開催しました。当日は全国から12名が参加し、各研究室でのテーマに沿った研究を体験しました。サマースクール終了時には国包専攻長より受講生に修了証が手渡され、終了後は所員と参加者が一同に集って懇親会を行ない、研究等について語り合い、交流を深めました。

今回のサマースクールでは、受講生が実際の研究内容を教員および大学院生とともに体験するようにしたことで、受講生からは「各研究室の研究内容および方針がよく理解できた」と好評でした。

(大学院生活健康科学研究科環境物質科学専攻 教授 小林 亨)



研究体験の様子

各研究室のテーマ

- 大気環境研究室…大気環境汚染物質のTD-GC/MSによる迅速定量
- 植物環境研究室…植物の光合成速度に及ぼす光、二酸化炭素の影響を調べる
- 物性化学研究室…水環境中の汚染物質を対象とした超高感度分析法を学ぶ
- 生態化学研究室…遺伝子の可視化
- 生体機能学研究室…ストレスを測る!
- 環境生理学研究室…消化管機能の生理学的測定(運動or上皮膜輸送)と消化管組織形態観察



懇親会にて

食品栄養科学部、環境科学研究所

サイエンスフェスティバル in る・く・る 2011に参加

8月6日(土)、7日(日)、13日(土)、14日(日)に静岡科学館 る・く・るで開催された「サイエンスフェスティバル in る・く・る 2011 青少年のための科学の祭典」に、食品栄養科学部と環境科学研究所の教員と学生が参加しました。

サイエンスフェスティバルとは、青少年が科学の不思議さや楽しさを実感できるような実験や工作を、大学教員や高校・中学教諭、科学愛好家等が来場する子ども達に指導するイベントで、今年はしずおか科学技術月間のイベントのひとつとしての開催でもありました。

食品栄養科学部からは教員14名と学生31名が参加し、「ブドウジュースの色はなぜ変わるの?」(ブドウジュースに洗剤や酢など家庭にある身近なものを加え、色がどう変化するかを観察する実験)、「キイロシヨウジョウバエのかんさつ」(様々な突然変異体の観察)と「気体って不思議!」(重曹とクエン酸で二酸化炭素を作り、それでロウソクの火を消す消火器を作る実験)の3テーマで出展し、子供たち一人一人に科学の面白さが伝わるよう、丁寧に指導を行いました。

環境科学研究所(地域環境啓発センター)からは、教員6名と学生1名が参加し、「シンクロするメトロノーム」との課題で出展し、バラバラに動いているメトロノームが次第にシンクロしていく不思議な現象を観察し、「何故、メトロノームがシンクロするのか?」について楽しみながら考えました。

両部局とも500名以上の来場者があつまり、実験や観察を

楽しんで純粋な笑顔を見せてくれる子供達に、教員と学生一同は心地良い刺激を受けていました。教員のひとり、子供たちに実験の楽しさと科学への興味を持ってもらえたことを喜び、学生も普段接することが少ない子供達に実験の指導を通じて多くのことを学び、改めて科学の楽しさを実感し、学生生活の中で思い出に残る体験が出来たと思うと語りました。

(食品栄養科学部 助教 井上広子/環境科学研究所 助教 榎原啓之)



食品栄養科学部の講師陣



環境科学研究所「シンクロするメトロノーム」のブースで熱弁をふるう講師陣

○実験講師一覧

【食品栄養科学部】

井上広子助教、菅嶋泰成助教、伊藤創平助教、熊澤茂則教授、増田修一准教授、新井英一准教授、太田敏郎助教、丹羽康夫助教、石井剛志助教、佐野文美助教、佐久間理英助教、古川悠子助教、伊藤圭祐助教、島村裕子助教
4年生: 乾沙王里さん、小川美穂子さん、木川梨沙さん、佐藤美咲さん、柴田昌治さん、辻岡志穂さん、林美香さん、山田雄司さん、青木瞳さん、松下亜沙美さん、諸星彩さん
3年生: 稲垣智之さん、奥川衣里さん、匂坂美輝さん、柴田孝世さん、曾根祐輔さん、原有香さん、平田隼さん、藤浪未沙さん、松永夏希さん、望月彩加さん、森美津希さん、渡邊功樹さん、安藤佐紀子さん、大城瑠平さん、大代真実さん、杉浦文香さん、盛山夕紀子さん、服部加世子さん、古田和加奈さん、増田有里子さん

【環境科学研究所】

下位香代子教授(地域環境啓発センター長)、内藤博敬助教、岩村武助教、斎藤貴江子助教、戸数浩介助教、榎原啓之助教、中村咲緒梨さん(環境物質科学専攻博士前期課程2年)

≫ 2011 食品栄養科学部 キッズ・ラボ ～食塩水を使った虹作りに挑戦～

食品栄養科学部では、しずおか科学月間のイベントの一環として、「科学」の不思議さ面白さをもっとたくさんの子供たちに広めたい、科学の「？」を「!」にしたいという思いを込めて、小学校3年生以上の子供たちを対象に「2011 食品栄養科学部 キッズ・ラボ」を8月20日（土）に開催しました。

当日は、静岡市内ばかりでなく、県内各地から参加していただき、小学生を中心に70名とその保護者の方が「食塩水で虹を作ろう!」というテーマで実験を行いました。皆真剣にかつ楽しく実験に取り組み、子供たちは実験を見ながら驚いた表情や真剣な表情を見せていました。イベントのメインである「虹」作りでは、「虹」が完成すると満面の笑顔を見せてくれました。食塩水を使った虹作りを通して、子供たちの「科学」を身近に感じるきっかけになったのではないかと思います。

（食品栄養科学部 食品衛生学研究室助教 島村裕子）



虹作りに熱中する子供たち



○実験講師

【教員】

島村裕子助教、増田修一准教授、新井英一准教授、佐久間理英助教、吉川悠子助教

【学生】

食品栄養科学部4年生

池辺美香さん、佐藤美咲さん、柴田昌治さん、前田菜生さん、松下亜沙実さん

≫ 教授陣と食の不思議を解明しよう! ～「食育アドベンチャーランド2011」県民の日に本学で開催～

8月19日（金）、本学食品栄養科学部が共催として参画する「食育アドベンチャーランド2011・体験その2『創造の湖』」が本学を会場に開催されました。

本イベントは、子ども達に静岡の特産物に触れながらトップアスリートや一流スポーツ指導者とともに「食」と「運動」の大切さを体感してもらうことを目的に毎年開催されており、本学の食品栄養科学部栄養生命科学科の学生がインターンシップとして全回の運営に参加し、起業管理栄養士の草分けとして活躍中の、（株）しよくスポーツこばたてるみ社長から指導を受けています。

本学が参加してすでに6年目となり、今年は「教授陣と食の不思議を解明しよう!」と題し、アルギン酸を使った人工のカラーイクラの作成、ミラクルフルーツによる酸味の感受性の変化などの食品科学実験のほか、静岡県特産品に関する話、調理実習などが本学教師陣によって行われ、ゲストにサッカーJリーグの選手等を指導しているトレーナーの西村耕治さんを迎え、トークショーとバランスボール体験などの体のメンテナンス術を教わりました。

参加者の小学生の中には1年生の時から6年間連続で参加しているリピーターもあり、五感をフルに使って食べることの大切さ、動くことの楽しさを体験できるスポーツ食育イベントとして定着していることがうかがえました。

（食品栄養科学部 フードマネジメント研究室 准教授 市川 陽子 助 教 佐野文美）



食品栄養科学部 栄養生命科の学生も参加しイベントをサポートしました



食品科学実験のおもしろさに小学生も夢中



西村耕治トレーナーによるストレッチとバランスボール体験
西村さん「食事はもちろん、体の休養とメンテナンスも大切」と子ども達に伝えていました

○当日の参加者

【教員】

大島寛史食品栄養科学部長、市川陽子准教授、三好規之助教、佐野文美助教、伊藤圭祐助教

【学生】

栄養生命科学科2年生

伊東香織さん、小嶋幸恵さん、瀬戸有紗さん、高橋春華さん、戸田知里さん、野田沙彩さん

② 第6回食育推進全国大会(ふじのくに食育フェア2011) ~「『食を考える』若者からの提言」を本学学生が企画・運営~

6月18日(土)・19日(日)の2日間、「第6回食育推進全国大会」が三島市で開催され、本学食品栄養科学部栄養生命科学科の学生が参加しました。

大会では、産学民官の各団体より、数多くの講演、パネルディスカッション、タウンミーティング、展示、有名シェフによる調理講習、静岡県のご当地グルメ紹介等が行われる中、県主催のイベントの目玉として、本学学生が日本大学短期大学部専攻科の学生との共同企画・運営によるパネルディスカッション「『食を考える』若者からの提言」を発表しました。

食に対する若者の関心が薄れているといわれる昨今、食に関する専門家を志す学生達が、食に対する思いや考えを来場者に伝えて意見を求め、提言をまとめるというもので、約1ヶ月の準備期間に両学の学生が行き来して内容を検討してきました。

当日は、食べるという行為の意味、現代社会における食問題、食育の役割、食文化を守ることの意味、また、東日本大震災を受けて平常時と非常時の食の、小テーマに沿って意見を述べ合い、最後は食への感謝とその表現「いただきます」について、新聞記事等の世論や各大学でのアンケート調査結果をもとに討論を行いました。

割り箸を配布して正しい箸の持ち方を確認するなど、様々な工夫をちりばめた参加型のパネルディスカッションとなりました。参加者の一人(元社会科教諭)からは、「今回の大会中で最も素晴らしい企画」とお褒めのコメントをいただき、学生たちも1ヶ月の苦勞が報われホッとしたようでした。

(食品栄養科学部 フードマネジメント研究室 准教授 市川 陽子)

参加した学生からのコメント

今回の食育推進全国大会に参加することで、あらためて現代の食問題について考え直すきっかけとなりました。現在、東日本大震災により、生活を見直す動きが広がっています。もう一度、食べ物をはじめとして、多くの人・物に感謝する気持ちについて考えてみてください。本日お越しくださった皆様にも、食について考えるきっかけにいただけたら、とてもうれしく思います。

本学からの参加者

●食品栄養科学部栄養生命科学科2年生
妹尾奈波、戸田知里、長澤美沙、秦奈津子、山中瑞貴



食について来場者と真剣に語り合う参加学生たち

環境問題に関するいろいろな実験に親子で挑戦！ 夏休み親子環境教室2011

環境科学研究所地域環境啓発センターでは、8月6日(土)に「夏休み親子環境教室2011」を開催しました。

親子環境教室は、小学生の環境問題に対する興味を促し、その意識の向上を目的とするとともに小学生の子供たちが自らの意思で知的世界の探求に乗り出してくれるきっかけになればという思いを込めて毎年開催しています。静岡新聞・静岡放送「静岡かがく特捜隊」タイアップ企画としてご協力いただいております。当日は、静岡市内ばかりではなく、県内各地からご参加いただき、26組の小学生とご家族は、「すみれ色の力」「きれいにする力」「分解する力」の3つの実験テーマの講義を受けた後、真剣に、且つ、楽しく実験に挑戦していました。その後、科学に親しもうと企画された「縁日実験」で、放射線を見たり、スライムやシャボン玉や日光写真を作ったり、また、ドライアイスや炭酸飲料など身近な材料を使った化学反応を見たりしました。

参加者からは夏休みの楽しい思い出になったとの声が多く寄せられました。
(環境科学研究所 教授 桑原厚和)



大学院生の説明を熱心に聞く親子

環境科学研究所 こどもエコクラブ交流会の開催

8月20日(土)に平成23年静岡県中部地区「こどもエコクラブ交流会」(静岡県環境ふれあい課主催、静岡県立大学地域環境啓発センター共催)が環境科学研究所で開催されました。「こどもエコクラブ」は、子供たちが地域の仲間と一緒に、主体的に地域環境・地球環境に関する学習や具体的な取組・活動ができるように財団法人日本環境協会が環境省の後援で実施しているものです。

今回の交流会は、NPO法人しずおか環境教育研究会のスタッフが中心となって企画され、「こどもエコクラブ」から県中部地区の子供たちとサポーター33名が集まりました。午前中は、環境に関するゲームや各クラブの取組・活動紹介が行われました。午後は、グループにわかれて「新発見ツアー」として環境科学研究所一般公開の各研究室のデモ実験に参加してもらいました。子どもの参加者からは「初めて知ったことがたくさんあった」「場所によって二酸化炭素の量が違うことが分かった」などの感想がありました。また、大人の参加者からは、

「時間が少ないと思うほど内容の濃いものだった」「大学での研究に子どもたちの活動のつながりを感じることができた」「親の方が一生懸命聞いてしまった」などの感想が出てきました。今後も、このような地域の環境活動を積極的に支援し、地域環境啓発センターの活動の輪を広げていきます。

(環境科学研究所 准教授 谷幸則・助教 斎藤貴江子・教授 下位香代子)



>> 県民の日事業

明治9年8月21日に当時の「静岡県」と「浜松県」が合併して今の静岡県が誕生してから、今年で135年。静岡県では毎年この日を「県民の日」として、郷土静岡の魅力をさらに知ってもらう機会となるよう、7月から8月にかけて県内各地で多彩なイベントが行われています。本学も県民の日事業に毎年参加し、今年も「キャンパスツアー」「環境科学研究所一般公開」を行い、短期大学部では、「健康度測定フェア」「大学見学会」を開催しました。各イベントとも多くの方々にご参加いただき、日頃入る機会のない大学の様子を「大学に親しみを持てた」「来年度も参加したい」などの声が寄せられました。

8月19日(金)

県立大学 キャンパスツアー

キャンパスツアーには、幼稚園から小中高生、一般の方まで合計66名が参加され、学内の施設見学をはじめ、体験学習や教員によるパネル展示と説明などを興味深く聞いていました。その他、希望者を対象に健康相談会が実施されました。



8月19日(金)

短期大学部 大学見学会・健康度測定フェア

健康度測定フェアでは、体成分分析、骨密度測定などを行い、希望者に本学教員による健康相談などを行いました。大学見学会には、高校生等47名と保護者の方にご参加いただき進学相談などを実施しました。



8月20日(土)

環境科学研究所一般公開

環境科学研究所では、身近な環境問題を楽しく学べる体験やクイズなどを行い、当日は高校生や親子連れなど200名近い参加者が訪れ賑わっていました。



≫ 静岡県立大学へようこそ オープンキャンパス2011開催

8月6日(土)、8日(月)、9日(火)、10日(水)及び11日(木)の5日間、オープンキャンパス2011を開催しました。今年は学生主体のプログラムを増やし、学部紹介・入試説明・学生生活の紹介・在学生との懇談会・キャンパスツアー・模擬講義などを実施し、高校生や保護者など4000人以上もの参加者で賑わいました。

今年度初の試みとして、オープンキャンパスに来られない方のために、国際関係学部のオールコミュニケーション模擬授業のライブ映像をインターネット配信しました。* また、主にオープンキャンパスに参加できなかった方を対象に、8月19日(金)に全学部を対象とした夏季大学説明会を開催しました。当説明会には230人以上にご参加いただきました。

オープンキャンパスのアンケートでは、「オープンキャンパスに参加した大学の中で一番魅力的だった」「教員、学生の対応が良かった」「絶対県大に合格しようと気合が入った」など、嬉しいお声をいただきました。

多くの参加希望者に満足してもらえよう、来年度以降も改善を続けていきたいと考えています。

*この放送は下記URLで視聴することができます。

<http://www.ustream.tv/recorded/16550800>



経営情報学部模擬授業



薬学部キャンパスツアー



看護学部体験コーナー

≫ 「第67回産学官交流」講演会への参加

7月15日(金)、静岡市清水産業・情報プラザが主催する「第67回産学官交流」講演会に、「世界を襲う食の安全! 猛威をふるう食中毒微生物」～その脅威と予防を考える～を全体テーマとして、本学食品栄養科学部の大橋典男教授、市川陽子准教授が講演しました。講演会は、静岡商工会議所清水事務所で行列、大橋教授は、最近の社会事件となった腸管出血性大腸菌O111やO157等、気を付けるべき食中毒微生物を紹介し、続いて市川准教授が、食中毒を防ぐ調理場をつくるポイントを講演。多くの地域企業の皆様に出席いただき、食の安全についての認識が深まる機会となりました。

本学では、11月18日(金)に、教員の研究成果を地域企業の皆様にご理解いただき、活用していただくための大学と地域との交流イベント「産・学・民・官の連携を考えるつどい」の開催を予定しています。皆様のご参加をお待ちしています。



留学体験記

International Student Report

海外留学した生徒に、留学先での経験した出来事や学んだことを語っていただきました。



● 名 前 上原 恭 さん

● 所 属 国際関係学部 3年

● 留 学 先 ボアジチ大学(トルコ)

● 留学期間 2010年9月～2011年6月

Q1.留学をしようと思ったきっかけは？

高校時代からトルコ語やトルコの歴史・民族に興味があり、いつか長期滞在して文化や人々に直接触れたいと考えていました。そこで、幸運なことに県大がトルコの大学と交換留学提携を結んでいるとの話を聞き、このチャンスは絶対掴もうと思い、留学を決意しました。



トルコ南東部にある都市ジャンルウルファの街並み

Q2.留学先ではどんな授業を学んだ？

大学では歴史学科に所属し、オスマン帝国史、メソポタミア以前の古代中東史やイスラーム美術・建築などの授業、また当然ながら英語・トルコ語などの語学も勉強していました。

Q3.留学先での生活は？

授業はほぼ全て英語。ハードですがその分充実していてやりがいがありました。EU加盟国をはじめ世界中から交換留学生が来るので、国際色が非常に豊かな環境だったと感じます。毎日キャンパスへ向かう道からはボスフォラス海峡が一望できて贅沢でした。



通っていた大学の広場で行われた子どもフェスティバル

Q4.留学中の印象的なエピソードは？

トルコ人にはサッカー好きが多く、今まであまり興味の無かった自分もトルコ人の友達と一緒にテレビに喰いつくように熱中して観戦しました。ただ、サッカーの勝敗が決まった直後の繁華街(タクシム)は血気盛んな人がたくさんいて身の危険を感じました(笑)。

Q5.留学して良かったと思うことは？

まず、たくさんの最高の友達ができたこと。トルコ人は友達同士でも家族のように仲良しなので、自分も友達をもっと大切にしたいと思いました。また、漠然とした仏教のアイディアしかなかった自分の宗教観にも、イスラーム教の国に暮らすことで新しい価値観や習慣が学べたのも良かったです。

Q6.これからの目標、留学での経験をこう活かしたい！

チャンスがあればトルコと関係のある仕事に就ければそれはなによりですが、まずは周りのみんなにトルコの魅力をたくさん伝えられる人間になりたいです。そのためにこれからもトルコのことを好きでいて、自分から積極的に学ぶ姿勢を心掛けたいです。また、物事を多角的な視点から見ること、柔軟に見ることを忘れずにいたいです。



長期旅行で友達と記念写真



● 名 前 杉田 有香 さん ● 所 属 国際関係学部 4年

● 留 学 先 リール政治学院 (フランス) ● 留学期間 2010年8月～2011年7月

Q1. 留学をしようと思ったきっかけは？

留学することに憧れもありましたし、第2言語をきちんと使えるものにするという目標があったので、交換留学制度を使って行くことを決めました。



学校のハロウィンパーティー みんな楽しそう!

Q2. 留学先ではどんな授業を学んだ？

都市計画、コミュニケーション、多文化についてなど、政治の分野より、文化系の授業を多く学びました。フランスでは人と人の距離がとても近く、他人同士でも、まるで友達だったかのように話し始めます。交換留学先のリール政治学院でも、フランス人学生が「どこから来たの?」「授業は難しくない?」「ノートをあげようか?」「困ったらここにメールしてね!」と話しかけてくれました。フランス語でフランス人と同じ授業を受けるのは、始めはとても厳しいものがありますが、彼らのおかげで何とか乗り越えることができたと思います。

Q3. 留学先での生活は？

リール政治学院のあるノール県は、フランス主要都市とロンドンをはじめとした近隣諸国との交通の便の良さ、生活するのにちょうどよい街の規模で気に入りました。留学中、日本ではできない経験がしたいと思い、現地の日本人学校でのボランティアの仕事を紹介してもらいました。普段フランス語でフランス流の教育を受けている子供たちは、週に1度だけ日本語で日本流の教育を受けており、二つのまったく違った文化の狭間で少しずつ成長していく子供たちの姿はたくましいものでした。私を「先生」と呼んで慕ってくれた彼らに今も会いたくなります。

Q4. 留学中の印象的なエピソードは？

ひとり旅をたくさんしましたが旅先での出会いは印象的です。また、民族差別を目の当たりにしたことは、辛かったけどとても勉強になりました。フランスは移民国家で、アジア人の私もめずらしがられず、フランス語で話しかけられます。アフリカ系もいればアジア系もいる、人種が異なる人たちが自然に共存していることに驚きました。しかし、だんだんと見えていなかったものが見えてきました。海外領土から来た、フランス国籍の友達が差別された話を聞き、私自身も実際に道端でかわれました。外に出るのが嫌になるほど憤りを感じることもありましたが、日本にいてはこの問題と真正面から対峙して考えることは一生なかったと思うと、フランスに来て良かったと思いました。

Q5. 留学して良かったと思うことは？

学生のうちに海外に出てみたいと願って叶った留学は、静岡で生まれ育った私には大冒険でしたが、世界の広さを知ることができましたし、度胸や生命力がついたと思います。大きな荷物を引きずりながら必死に歩いた初めてのパリの街は、帰国する最後に寄ったときには景色が全く違って見えました。語学力だけでなく精神的にも一回り大きくなることができました。留学の機会をいただき、サポートしてくださった皆様に深く感謝しています。



日本人学校のおやつ時間
「手を挙げる」ときは5本
日本人に大切な協調性を養う時間でもあります

Q6. これからの目標、留学での経験をこう活かしたい!

異なる国の人たちとフランス語を通じて話すことの面白さなど、本当に国際色豊かな環境での生活は毎日刺激的でした。この留学で得た経験を多くの人に伝えたいです。

短期交換留学について

海外交流協定校への派遣学生募集を行っています。派遣学生の資格及び条件等については公式サイト、派遣学生の募集は「Web学生支援サービスシステム」(本学在籍者閲覧可)にて掲示します。

お問い合わせ: 企画調整室 国際交流担当
電話 054-264-5103

その他
留学について

語学研修について

夏や春の長期休暇を利用して、英語や中国語を学びます。語学の勉強だけでなく貴重な海外体験ができます。

*留学に関する情報は学生室および学生室前ロビーにも配架しています。ご不明なことは、学生室(留学担当)までご相談ください。

お問い合わせ: 学生室 留学担当
電話 054-264-5009



図書館はただ今改修中で各フロアが少しずつ趣を変えています。その最新情報をお届けします。

- ❶ この夏、1階の参考図書コーナーを中心とした書架移設工事中から改修がスタートしました。
- ❷ 海外衛星放送設備等のあるAVコーナーが2階から1階に移設され新聞コーナーと並びました。
- ❸ 2階の正面階段回りには、本学資料コーナー(仮称)の整備のための低書架が設置されました。
- ❹ 2階のキャレル(個人学習室)には壁ぎりぎりの幅に設えた広い机と物置台が用意されました。
- ❺ 3階はグループ学習ができる椅子や机が整備される予定です。今は広い空間を満喫してください。



▲参考図書コーナーの
幅7mを超える書架の移設の様子



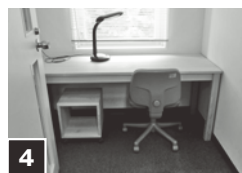
After



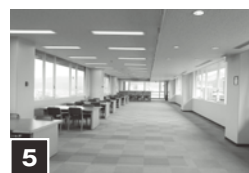
1



3



4



5

本学先生からの寄贈著書

古賀 震先生(短大部)

『徹底ガイドDICのすべて 基礎と診療の最前線』(救急・集中治療:Vol.22 No.11・12) 総合医学社(493.17/G19)
『DIC とびらを拓く第三世代へ』(臨床病理レビュー:特集第147号) 臨床病理刊行会(492.1/D71)

津富 宏先生(国際関係学部)

『犯罪者の立ち直りと犯罪者処遇のパラダイムシフト』日本犯罪社会学会編 現代人文社(326.56/N77)

富沢 寿勇副学長 玉置 泰明先生 湖中 真哉先生(国際関係学部)

『平成22年度フィールドワーク実習報告書』(382.154/Sh94)

五島 文雄先生(国際関係学部)

『南部アジア』ミネルヴァ書房(312/Se22/7)

長瀬 久子先生(国際関係学部)

『エリザベス・ギヤスケルとシャーロット・ブロンテ』 英宝社(930.28/G25)

シリーズ 私の1冊の本

このコーナーでは、先生方がこれまでに読んで感銘を受けた本や印象に残っている本を紹介しています。紹介される本は専門分野に関連した興味深い本のほか、専門とは全く離れたジャンルの本のこともあります。講義のときとは異なる切り口による専門分野の解説や思いがけない趣味や人生経験の披露などに先生を少し身近に感じられるかもしれません。ここで紹介する本は図書館で受け入れていますので、是非一度この機会に手にしてみてください。



看護学部 講師 勝又里織

- 紹介図書名：誕生死
- 著者名：流産・死産・新生児死で子をなくした親の会
- 出版社名：三省堂
- I S B N：978-4-385-36090-4
- 図書館所蔵：閲覧室2階 495.7/R99

今回、「私の1冊」として、皆さんにご紹介したい本は、『誕生死』です。

私はかつて助産師として働いていたとき、家族や友人、看護師の友人からも、よく「産科は生命誕生の場だから、他の病棟と違って、明るい職場でいいわね。」と言われました。私自身、助産師として就職するまで、そのように思っていましたので、「妊娠出産=Happyなこと」と考えるのは、自然のことだと思います。おそらく、多くの方が、元気に赤ちゃんが誕生することが普通のことだと思っているでしょう。しかし、その一方で、流産や死産、新生児死などによって生まれてきた赤ちゃんを抱くことができない方がいらっしゃることを皆さんはご存知ですか？

近年、周産期の喪失を体験する方は、かつてに比べて減少傾向ではありますが、平成21年度にはおよそ3万人いらっしゃいました(厚生労働省統計)。この年の出生数は約110万人ですので、数値としては、一見、さほど多くないように見えるかもしれませんが、だからこそ、赤ちゃんを失うつらさを理解してもらうことができず、より気持ちの持っていき場がないこともあります。私は、妊娠出産というおめでたい場面の裏側にある「悲しみ」や「想い」を将来医療関係の職種に就く予定の学生さんにはもちろんのこと、他学部の学生さんをはじめ、多くの方々に知っていただきたいと思い、この本を取り上げることにいたしました。『誕生死』は、流産や死産、新生児死によりお子さんを亡くされたお母さまやお父さまが、そのときの体験をもとに、わが子に対する想いを綴っています。それと同時に、私たち医療関係者に対するご意見やご要望、友人や家族に対する率直な感情も書かれています。

私が臨床にいたとき、そこが大学病院だったこともあり、流産は日常的でしたし、年に何人かの死産分娩や新生児死がありました。そのすべてを自分が担当したわけではありませんが、10年以上経った今でも気にかかっている方がいらっしゃいます。また、私は、1年ほど前から、聖路加看護大学看護実践開発研究センター事業の1つである「天使の保護者ルカの会」にスタッフ研修生として参加するようになりました。そこには、流産・死産・新生児死を体験されたお母さまやお父さま、ときには家族の方が自分の体験や気持ちをお話しいらっしゃいます。会は、年に7~8回行われていますが、体験者の方のお話を伺うたびに、臨床にいた当時の自分の対応はよかったのか、もっとこうすべきだったのではないかと考えさせられます。そして、退院されたあとに、入院中とは別の多くの苦悩があることも知りました。そのようなこともあり、私は初めてこの本を読んだとき、身体の震えが止まりませんでした。なぜなら、自分のこれまでの看護に対する答えがそこに書かれているように感じたからです。

一般に、身近に赤ちゃんを亡くされた方がいらしたとき、なんと声をかけてよいのか分からないものです。誰もが赤ちゃんを亡くされた方を傷つけようと思って接してはいませんし、早く元気になることを願っていると思います。その結果、「まだ若いんだから次の子を作って」とか、「1人子どもがいるのだからその子のために頑張らなきゃ」などと言ってしまいがちです。勇気づけるつもりで言った何気ない一言が、実は大きな傷を負わせてしまう場合があります。お母さまやお父さまにとって、「上にいる子どもは上にいる子ども」ですし、「次の子どもは次の子ども」、「亡くなった子どもは亡くなった子ども」であり、どの子ども1人のかげがえのないお子さんです。どのお子さんも、亡くなったお子さんの代わりになることはありません。それは、たとえこの世に生まれてくることが出来なかったとしても、生まれてすぐに亡くなってしまったとしても、1人の子どもであり、尊い命なのです。この本は、私たちにそれを教えてくれています。是非一度お読みいただければと思います。



奨学金をありが

静岡県立大学では、5月から8月までの間に奨学金授与式が行われました。
今年度は地域の1団体と地元企業7社から奨学金を給付いただき、計24名(延べ30名)の学生が
奨学金を受給しました。

日本平留学生基金(入学祝金) 授与式：5月30日 ■ 学部留学生1年生(17人)

「TOKAI」 奨学金授与式

授与式：6月13日

- 国際関係学部 4年 熊谷 拓也
- 薬学部 1年 大立目 真臣
- 国際関係学部 2年 丁 ダウン



「静岡ガス奨学生」 認定証授与式

授与式：6月30日

- 薬学部 5年 萩原 紫織
- 国際関係学部 2年 福井 薫



「万城食品奨学金」 授与式

授与式：5月23日

- 国際関係学部 4年 李 曉鄰



「静岡信用金庫奨学生」 奨学金授与式

授与式：6月27日

- 薬学部 6年 佐原 百合名
- 看護学部 2年 浅香 英里



「南富士産業奨学金」 授与式

授与式：7月4日

- 経営情報学部 1年 スー モン イー



「東海澱粉国際交流奨学基金」 授与式

授与式：7月21日

- 生活健康科学研究科 1年 趙 曉旭
- 生活健康科学研究科 1年
グエン ファン キュー ユン



「天野回漕店奨学金」 授与式

授与式：8月4日

- 国際関係学部 2年 朱 偉鵬
- 国際関係学部 2年 曾 梓龍



とうございました

● 地元企業等による本学学生への奨学金

名 称	給付金額	支給期間	応募資格	23年度 採用人数
日本平留学生基金(入学祝金)	1万円	一時金	外国人留学生のうち 学部新入生	17人
(株)TOKAIホールディングス	月額 5万円	1年間	全学生 (研究生、科目等履修生含む)	日本人2人 留学生1人
静 岡 ガ ス (株)	月額 5万円	1年間	学部生・大学院生	2人
(株) 万 城 食 品	月額 5万円	1年間	中国からの留学生	1人
静 清 信 用 金 庫	月額 5万円	1年間	静岡県内出身の学部生	2人
南 富 士 産 業 (株)	月額 3万円	1年間	静岡県立大学に在学する 留学生	1人
公益信託東海澱粉国際交流奨学金	月額 3万円	1年間	アジアからの留学生のうち 修士大学院生	2人
(株) 天 野 回 漕 店	月額 5万円	1年間	中国・東南アジアからの 留学生のうち学部2～3年生	2人
ス ル ガ 奨 学 財 団	月額 5万円	2年間 (3,4年次)	外国人留学生のうち 学部2年生	1人 (平成22年度実績)
清 水 ロ ー タ リ ー ク ラ ブ	5万円	一時金	外国人留学生のうち、他の 奨学金を受給していない学 部新入生	12人 (平成22年度実績)

本学では若き人材育成のために、在学する学生に対し、この他にも様々な奨学金を制定しており、地元企業等の支援や大学私費により学生生活を支援しています。詳細については本学公式サイトをご覧ください。

公式サイト ホーム > キャンパスライフ > 学生生活 > 奨学金について

■ <http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/campuslife/life/002/index.html> ■ お問い合わせ 054-264-5009(学生室)

25周年記念事業



静岡県立大学は、今年度に創立25周年を迎えています。

これを記念して、本学が高度な教育研究機関であり、地域社会、国際社会に大きく貢献すべきことを再認識すると共に、その決意を広く社会にアピールするため、本年4月から来年4月までの間、様々な記念事業を行います。

■学長メッセージ

1987年に開学した静岡県立大学は25年の歩みを続けてきました。その間に5学部、5大学院研究科、短期大学部、環境科学研究所が整備されました。学生数約3500名の中規模大学ですが、「個を拓(みが)き強い絆で知を発信」をモットーに教育、研究、地域・国際貢献に励んでいます。本年度は国際シンポジウムを含む多くのイベントが企画されています。皆様の積極的な参加を期待しています。



学長 木苗 直秀

創立25周年 記念イベント予定

(10月17日現在)

4月

- 4/20 開学記念行事

6月

- 6/13 シンポジウム「グローバル化とジェンダー」
- 6/25 第4回しずおか環境を学ぶ会
「超えておんのせ・かい
～マイナスの世界で起きる不思議な現象～」

7月

- 7/2 公開講座(経営情報学部)
- 7/3 公開シンポジウム
「東日本大震災と安全保障
～パシフィック・アークを中心として～」
- 7/9 公開講座(経営情報学部)
- 7/16 公開講座(経営情報学部)
- 7/23 公開講座(経営情報学部)
- 7/28 異分野融合フォーラム(1回目)
「異分野融合について考える集い」

8月

- 8/12 高校生による自然科学研究成果発表会
- 8/30 静岡県立大学創立25周年記念特別公開セミナー
「日本の地域医療体制を考える」

10月

- 10/1 公開講座(看護学部)
- 10/1 留学生交流会
- 10/8 川島隆太講演会
「脳を鍛えるー静岡県民のためのトレーニングー」
- 10/8 公開講座(短期大学部)
- 10/15 公開講座(看護学部)
- 10/15 公開講座(短期大学部)
- 10/19 特別講義(薬学研究科)
- 10/20 異分野融合フォーラム(2回目)
「コミュニティデザイン～人と人の繋がりで生まれる価値～」
- 10/22 公開講座(短期大学部)
- 10/29 公開講座(看護学部)
- 10/29 公開講座(短期大学部)
- 10/29 記念式典(大学間学術交流協定調印式)
- 10/30 創立25周年記念特別講演会(短期大学部)
- 10/29～30 創立25周年記念シンポジウム
「変容する世界における黒海地域～新しい世界、変わらぬ問題～」

11月

- 11/5 シンポジウム「震災後の日韓関係と協力のあり方」
- 11/5 公開講座(看護学部)
- 11/5 公開講座(国際関係学部)
- 11/10 特別講義(国際関係学部)
- 11/12 公開講座(国際関係学部)
- 11/17 特別講義(看護学部)
- 11/19 公開講座(国際関係学部)
- 11/21 創立25周年記念講演会及び学生とのフリートーク
- 11/26 公開シンポジウム
「人類学の社会的貢献:ビジネス、災害、地域連携」
- 11/26 静岡環境フォーラム21
- 11/26 公開講座(国際関係学部)
- 11/26 静岡県薬物乱用防止県民大会

1月

- 1/27 「課外授業」コンサート(短期大学部)

今後の開催事業

11/26

日本文化人類学会主催一般公開シンポジウム

「人類学の社会的貢献：ビジネス、災害、地域連携」

文化人類学における、新たな社会への関与を志向する近年の成果を報告し、様々な立場の参加者の議論を通じて、人類学のもつ可能性についての理解を深めます。

- 日 時：11月26日(土)13時00分～17時30分
- 会 場：静岡県立大学看護学部棟13411教室 ※駐車場がありませんので、お越しになる際は公共交通機関をご利用ください。
- 対 象：高校生以上の方ならどなたでもご参加いただけます。
- お申込み：不要 参加費無料
- お問い合わせ：国際関係学部 玉置泰明／TEL 054-264-5322

11/26

静岡環境フォーラム21

テーマ：光と現代社会 ～電波から放射線まで、光利用とその影響についてもっと知ろう、学ぼう、そして考えよう～

放射線の利用と人体への影響や、現代社会における光環境が生態系や人体に及ぼす影響などについて、専門家の講演とパネルディスカッションを通して学びます。

- 日 時：11月26日(土)13時00分～17時00分
- 会 場：ペガサート6階 B-nest(ビネスト) プレゼンテーションルーム
静岡市産学交流センター (静岡市葵区御幸町3-21)
- 対 象：高校生以上の方ならどなたでもご参加いただけます。
- 定 員：先着100名
- 応募締切：11月22日(火)
- 申込み方法：はがき、FAX、Eメールのいずれかで、①郵便番号・住所 ②氏名(ふりがな)・年齢 ③電話番号 ④Eメールアドレス を記入の上、下記にお申込みください。
- お問い合わせ：環境科学研究所 所長室 静岡環境フォーラム21係 宛
〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1
TEL / FAX 054-264-5729(所長秘書：杉山)
E-Mail kankyo@u-shizuoka-ken.ac.jp

*このほかの行事のお知らせも、公式サイトトップページ「創立25周年事業」よりご覧いただけます。

教員人事情報

●部局長等人事

氏 名	職 位	日 付
室谷 哲	学長補佐(教務担当)	平成23年6月1日付け
今井 康之	薬学部 学部長	平成23年10月1日付け
鈴木 隆	薬学部 副学部長	

●採 用

氏 名	学 部	職 位	日 付
稲井 誠	薬学部薬学科	助 教	平成23年9月1日付け
木元 千奈美	看護学部看護学科	助 教	
大泉 康	大学院薬学研究科	特任教授	
ベリール ベンジャミン	言語コミュニケーション研究センター	特任講師	平成23年9月20日付け

●昇 任

氏 名	学 部	職 位	日 付
内田 信也	薬学部薬学科	准教授	平成23年10月1日付け
津富 宏	国際関係学部国際関係学科	教 授	

●退 職

氏 名	学 部	職 位	日 付
ヘンマン ジム	言語コミュニケーション研究センター	特任講師	平成23年8月23日付け
森田 克徳	経営情報学部経営情報学科	准教授	平成23年8月31日付け

●名誉教授

氏 名	前 所 属 学 部	日 付
小黒 啓一	国際関係学部国際関係学科	平成23年4月1日付け
榊 正子	国際関係学部国際言語文化学科	

県大生 PICK UP!

経営情報学部

鈴木駿矢さん(3年)

MIIC(ミーク)



インタビューに答えてくれたMIICのみなさん

(左から)村田 優さん(1年)、高見 準さん(3年)、鈴木駿矢さん(3年)、水野侑梨花さん(3年)、石田裕紀子さん(3年)、中嶋奈緒さん(3年)

今年の春、経営情報学部生によって新しく発足した“経情をイノベーションする委員会”『MIIC(ミーク)』。いったいどんな学生団体なのか?代表の鈴木さんと、メンバーのみなさんにお話を伺いました。

—— MIIC(ミーク)ってどんな団体ですか?

MIICとはManagement Information Innovation Committeeの略で、我々の経営情報学部の問題点を見つけ、自分たちで改善していくという取り組みをしています。発足時は20名程のメンバーでしたが、毎週のミーティングやイベントを通して賛同者が増え、現在は40名近いメンバーで活動しています。

—— 夏にMIIC主催で行われた「経情夏会」はとても賑わっていましたがいかがでしたか?

そうですね。夏会では学年を越えた「縦のつながり」が生まれるようイベントを企画しました。例えば、参加者同士のコミュニケーション促進を担うアイスブレイク班が全員参加型のゲームを企画したり、「縦トーク」と題した座談会では、上級生から1年生に質問をするかたちになりました。参加者からは良い感想が多く寄せられましたし、夏会をきっかけにメンバーも増えました。

夏会の一コマ



代表 鈴木駿矢さん

ミーティングを見学!



夏会の反省やプロジェクトの進捗報告。誰かが発表すれば必ずコメントする生産的なディスカッションでした。

—— 初のイベントは大成功だったそうですね。ちなみに現在どんなプロジェクトが進行中ですか?

来年以降を見据えたプロジェクトもありますが、ちょうど後期に企画しているのが、大学見学ツアーを学生主体で行う「学生広報プロジェクト」、他学部との交流プロジェクト、ゼミ選択を通して自分の軸を見つける「探プロジェクト」、経情生のキャリアを考える「経情進路プロジェクト」の4つです。学生広報プロジェクトでは、いままで入試室の行っていた高校生やその保護者の方向けの県大紹介ツアーを、MIICの学生がお手伝いしています。生の学生の声や感覚で作り上げることによるリアル感が生まれると考えました。探プロジェクトは、先輩の充実した大学生活を聞くことから始め、経情のゼミ選択で浮上してきた問題点をさまざまな方向から解決していくというもの。その他来年以降の活動を含めると、経情ツアープロジェクト、経情縦コンプロジェクト、商店街共同プロジェクトなど、10個弱のプロジェクトが同時進行中です。

—— 代表の鈴木さん、MIIC立ち上げの経緯は?

経営情報学部を外から見たとき、学部が持つ魅力や学生の能力を、外の人間だけでなく中の人間もわかっていないと以前から感じていました。経情生が抱く格下感や自虐心を生んでいる原因がここにあると気づいたんです。やればできる学生たちがたくさんいるのだから、学生が力を発揮できる環境を作り、意識を変えていこう、というのが立ち上げのきっかけです。また個人としても、大学で学んだことを実践したいと考えていました。私は将来起業することを考えていて、組織論や経営戦略論を学んでいます。しかしこれらの分野は、組織を動かす、経営戦略を考える、そうした経験を積み重ねなければ充分とはいえない。実践の場がないなら、自ら作ればいいと思い、立ち上げに至ったわけです。

—— 大学の授業以外にもMIICの活動に影響していることはありますか?

夏に一ヶ月間、スポーツ振興やランニング指導者教育を行う社団法人にインターン研修に行っていました。その中で、イベント立案から当日進行までの責任者を1人で担当させていただきましたが、MIICに活かしたい収穫がたくさんありました。一つ挙げるとすれば、“顧客目線に立つ”ということです。お客様のニーズに答える企画でなければビジネスではないということですね。そこから徹底的に顧客の視点でイベント企画を練っていきました。この経験のおかげで、大学に戻ってからもお客様・メンバー・友達は何を求めているのか、という視点で考えるようになりました。これは非常に大きな収穫でした。

—— MIICのミーティングでもみなさんのプレゼンで「顧客」がキーワードになっていました。鈴木さんが得たことを、メンバーが共有していることがわかります。

今MIICでは、プロジェクトを顧客目線で捉えなおしています。今までは自分たちのやりたいイベントを企画し提供してきましたが、自分たちが「こう感じてくれるだろう」という押し付けはもうやめよう、どうしたらお客様が満足してくれるのか、どうしたら来てくれるのかをみんなで常に考えているんです。プロジェクトは随時発信していくので、ぜひ多くの方に参加いただきたいです。

今後のプロジェクトが楽しみです。活躍を期待しています! ありがとうございます!



MIICについてももっと知りたい、興味のある方は
Twitterをチェック!

Twitter: @MIIC616 (<http://twitter.com/#!/MIIC616>)

✧ 活躍する卒業生 ✧

01 | 永吉 翼さん

薬学部薬学科 衛生薬学コース 2000年3月卒業
株式会社みなみ薬局

Q1.どんなお仕事をされていますか？

A. 卒業以来11年間、薬剤師として調剤薬局に勤めています。処方箋調剤を行い、患者さんが主体的に治療に取り組み、生活の質を向上させることができるようケアすること、一般医薬品の販売などによるセルフメディケーションへの取り組み、及び日常の健康相談などを行っています。患者さんにご自分の治療でなぜこの薬が必要かを理解してもらい、主体的な意識を持っていただくことができたときは薬剤師をやっていてよかったと思います。

Q2.大学生活(ゼミやサークル)で印象に残っていること、今のお仕事に影響を与えたことは何かありますか？

A. 学生時代はソフトテニス部に所属しておりました。毎年夏は宿舎先の伊勢で真っ黒になっていたのが懐かしいです。部員の仲間は元より試合を通じて知り合った他大学の薬学生とも卒業後も会って近況報告などをしていて、自分も頑張らなと思わされます。

Q3.静岡県立大学に入学してよかったと思うことはありますか？

A. 自然に囲まれた静かな環境で学生生活を送れたことはよかったと思います。また卒業後は、県内の調剤薬局で勤務しているので勉強会などで先輩、同輩、後輩に会うことも非常に多く、情報交換を行えることもありがたいです。

Q4.今後の目標や課題などありましたらお聞かせください。

A. 薬物療法の指導及び管理を行う上で大事なコミュニケーション能力を向上させるため、人との出会いを大切に、様々なことに興味を持ち、人間の幅を広げるように努力していきたいと思っています。また一薬剤師として在宅業務などにより地域医療の一員として働けるよう努めていきたいと思っています。

Q5.在学生にひとこと、メッセージをお願いします。

A. 今更ながら、もっとしっかりと勉強すればよかったと思うことが多いです。社会に出てからも日々勉強ですが、それは学生時代の基礎の上に積み重ねていくものですので、今を大切に一生懸命励んで下さい。

02 | 沖村 彩さん

薬学部製薬学科 2008年 3月卒業
第一三共プロファーマ株式会社

Q1.どんなお仕事をされていますか？

A. 現在、私は医薬品製造をする会社において品質管理の仕事をしています。品質管理という仕事は、工場で製造した医薬品を出荷する前に品質に問題がないかを試験する仕事です。製品の出荷の可否判定に関わる重要な役割なので、間違いは許されない中、責任のある仕事を任される時、上司からの信頼を感じ仕事にやりがいを感じます。

Q2.大学生活(ゼミやサークル)で印象に残っていること、今のお仕事に影響を与えたことは何かありますか？

A. 四年生の頃、休みの日も大学へ行き、国家試験に向けて1日中必死で勉強していたことを思い出します。今仕事で忙しい時期になっても、「あの時あんなに頑張れたのだから」と考えるとまだまだもっと頑張れるはず、と思えます。大学時代に、大学の勉強以外でも何か一つ精一杯取り組んだことがあると、今後壁にぶつかったときの大きな力になると思います。

Q3.静岡県立大学に入学してよかったと思うことはありますか？

A. 静岡県立大学は総合大学で自分の学部以外の人達と接点があるところがよかったと思います。高校までと違い、専門的な勉強を始めると視野が狭くなりがちですが、就職してからは意外と他分野のことが役に立つことを実感します。思ってもみなかったことが役に立ったり、専門外の知識を要する機会があるので大学のうちに視野を広げておける場があるのはとても有意義だと思えます。

Q4.今後の目標や課題などありましたらお聞かせください。

A. 現在就職して4年目を向かえ、やっと自分のペースで仕事を進めていけることができるようになってきました。しかし、学ぶことに終点はなく、これからも常に学ぶことに貪欲に色々なことに挑戦していきたいと思っています。課題としては今の仕事だけに特化するのではなくさらに他の分野についても学び、幅広い知識を持ちたいと思っています。

Q5.在学生にひとこと、メッセージをお願いします。

A. 在学中は勉強に追われ、それが苦になることもあるかと思いますが、高い専門知識を持った教授達から勉強を教わることが出来る機会は働き始めてからはほとんどありません。大学という環境で学ぶ時間は本当に貴重であったと就職した今とても強く感じます。在学生の皆さま、ぜひ恵まれた環境の中、出来るだけ視野を広げ、様々なことに興味を持ち多くを学んでください。



勤務先の工場



製品の試験操作をしているところ

教

薬学部 南 彰助教 ■第75回日本生化学会中部支部例会・シンポジウム 奨励賞

5月28日に開催された第75回日本生化学会中部支部例会・シンポジウムにおいて、薬学部の南彰助教が奨励賞を受賞しました。
・演題「海馬神経興奮と連動した細胞表面シアリダーゼ活性の変化」



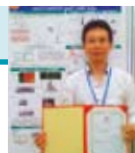
看護学部 木村 正人教授 ■日本腎臓学会学術総会 優秀演題賞

6月15日から17日開催された日本腎臓学会学術総会において、看護学部の木村正人教授の演題が優秀演題賞に選ばれました。
・演題「腎摘モデルにおける近位尿管障害部位の局在と虚血との関連について」

員

環境科学研究所 豊岡 達士助教 ■第38回日本トキシコロジー学会学術年会 若手優秀研究発表賞

7月11日から13日に開催された第38回日本トキシコロジー学会学術年会において、環境科学研究所の豊岡達士助教が若手優秀研究発表賞を受賞しました。
・演題「ノニルフェノールポリエトキシレート及びその光分解物はヒストンH2AXのリン酸化を誘導する」



薬学部 森本 達也教授 ■第3回抗加齢研究奨励賞を受賞

薬学部の森本達也教授が、第3回抗加齢研究奨励賞(臨床の部)を受賞しました。
・演題「健康食品を用いた新規心不全治療の開発〜ウコン主成分クルクミンによる、加齢にともなう心拡張能低下に対する効果の検討(第II相臨床試験)〜」



薬学研究科 吉田 篤史さん ■第9回次世代を担う有機合成シンポジウム 優秀発表賞

5月27日から28日に開催された第9回次世代を担う有機合成シンポジウム(次世代シンポ)において、大学院薬学研究科医薬品製造化学教室博士課程2年の吉田篤史さんが、「レモノマイシンの全合成」で優秀発表賞を受賞しました。



薬学部 鈴木 秀敏さん ■第11回日本抗加齢医学会総会 優秀演題賞

5月27日から29日に開催された第11回日本抗加齢医学会総会において、薬学部分子病態学分野6年生の鈴木秀敏さんが、優秀演題賞を受賞しました。
・演題「心特異転写因子GATA4を介したRACK1の心筋細胞肥大に対する効果の検討」

薬学研究科 石井 貴之さん ■第27回日本DDS学会 優秀発表者賞

6月9日から10日に開催された第27回日本DDS学会において、大学院薬学研究科医薬生命化学講座博士後期課程2年の石井貴之さんが、優秀発表者賞を受賞しました。
・演題「リポソームDDSによるAsialo-erythropoietinの脳虚血再灌流障害抑制効果の増強」



学

薬学研究科 杉山 公二さん ■第2回プロセス化学国際シンポジウム JSPC優秀賞

8月10日から12日に京都で開催されたThe 2nd International Symposium on Process Chemistry(第2回プロセス化学国際シンポジウム)において、大学院薬学研究科医薬品創製化学講座博士前期課程1年の杉山公二さんが、JSPC(日本プロセス化学会) 優秀賞を受賞しました。
・演題「Asymmetric Synthesis of Allyl Esters via Vanadium-Lipase Combo Catalyzed Dynamic Kinetic Resolutionバナジウム/リパーゼ組み合わせ触媒動的光学分割法を利用するアリルエステルの不斉合成」



生

薬学部 梅村 晃子さん ■第51回全国国公立大学卓球大会 優勝

8月14日から17日に開催された第51回全国国公立大学卓球大会において、女子シングルの部で薬学部1年生の梅村晃子さんが優勝しました。



経営情報学部 イノベーション研究科生ら ■情報教育シンポジウム 奨励賞

8月18日から20日に開催された情報教育シンポジウムSSS2011において、大学院経営情報イノベーション研究科修士課程1年の鍋田真一さん、横山航さんと、経営情報学部4年生の山本洸希さんの3人を筆頭著者として、学部2年生の八木田 知弘さんと学部1年生の小田奈緒さんも共著者となった論文が奨励賞を受賞しました。
・論文題名「フィジカル・アセスメントスキル習得における 学習者支援へのモデリング導入の提案」



薬学研究科 山口 真帆さん ■第84回日本生化学会大会で鈴木紘一メモリアル賞を受賞

9月21日から24日に開催された第84回日本生化学会大会において、大学院薬学研究科生化学講座博士前期課程1年生の山口真帆さんが、鈴木紘一メモリアル賞(優秀プレゼンテーション賞)を受賞しました。
・演題「新規Siaα2-3検出プローブの確立」

